



瀬谷区災害ボランティア ネットワーク 10周年



平成 30 年 5 月 21 日

目 次

1. 設立 10 年に思う	P2
2. 瀬谷区災ボラネットを担当して（記念座談会）	P4
3. 災ボラメンバーの感想	P6
4. 区役所、社会福祉協議会、地域防災拠点との連携	P12
5. 横浜市、神奈川県 of 災ボラ団体との連携	P13
6. 災害 VC シミュレーションと防災訓練への参加	P14
7. 被災地支援活動	P20
8. 交流、広報活動、展示物、広報媒体	P26
9. 会議、外部会議	P28
10. 防災講演会、研修、施設見学	P29
11. 会員、会員推移、コミュニケーション	P31
12. 活動履歴	P32

1. 設立 10 年に思う

● 瀬谷区災害ボランティアネットワーク代表 宗村隆寛

私たちは、大災害発生時に社協、区役所と協働でボランティアセンターを立ち上げ、運営を行うべく活動を行っています。また行政や地域防災拠点の方々と力を合わせて、ボランティアセンター設置・運営マニュアル作成と改定を行ってきました。

また、SNS でパソコンやスマホを使った情報収集において災害情報を地図上に表したり、最新の情報収集技術の習得に個人のスキルアップや他団体との交流に力を入れています。いざ災害が発生すると、若い高校生、中学生が頼りになるわけですから、平時から地元の中学校、高校に声をかけて、ボランティアセンターの開設訓練などに参加してもらっています。

平成 28 年度から、災ボラ賛助会員制度をもうけ、現時点で、地元法人企業 11 社と個人 2 名が加入しています。賛助会員は、災害時には、瀬谷区のために、スコップやトラックなどの物資の提供やボラセン業務の手助けをしていただける予定です。今後も地元企業に我々の活動を知っていただき、協力を得たいと思います。また、社協に所属している他のボランティア団体にも、ご理解とご協力を得て、災害時に備えていきます。

当災ボラは平成 29 年 4 月で 10 年になりました。今までに培った人脈、ノウハウと知識などを生かして、次の 10 年に向けて続けて行きたいと思っています。ご協力よろしく申し上げます。

● 瀬谷区長 森 秀毅 氏 (平成 29 年 5 月 15 日 10 周年記念座談会より)

日頃より区役所にご理解、ご協力を頂きありがとうございます。この 10 年を振り返ってみますと、東日本大震災、熊本地震その他多くの災害が発生し、多くのボランティアの方々が活躍されています。この首都圏でいつ起こるかかわからない災害に対して、みなさんの経験を十分に活かしていただければと思います。このような大震災が発生しますと、災害の復興にはボランティアの存在が非常に重要なカギになるのではないかと考えています。

災害ボランティアネットワーク、社会福祉協議会、区役所の 3 者が一体となって、災害対応に向けて取り組んでいくためには、区役所も皆さんと強く連携を取り、区民の安全・安心のための強化を図っていきたくと思っています。皆様方との連携が不可欠ですので今後とも宜しくお願い致します。

● 瀬谷区社会福祉協議会 会長 福田 愛一郎 氏 (平成 29 年 5 月 15 日 10 周年記念座談会より)

日頃よりいろいろとお力添えいただき、ありがとうございます。東日本大震災が発生して、6 年になります。この間ボランティアバス延べ 10 回運航しています。大震災が発生したときには、各地域に防災拠点があるわけですが、それらの避難所の開設運営がどれだけスムーズにできるのかを考えたとき、不安があります。瀬谷区には災ボラという団体があり、その力を借りて、スムーズに運営したいと考えています。

しかし現在の災ボラの活動を支援している拠点は 3~4 拠点です。熊本地震では住民も行政も地震は来ないと思っ込んでいたのです。瀬谷区も頑丈な地盤、海から遠いから津波は来ないと安心しているのではないのでしょうか。一方で災害が起きると全国から救援物資が届きますが、その物資が腐ったりして、末端まで届かないことがあったようです。このようなことを聞いたとき、如何に災ボラの存在が重要なのか、しみじみ感じました。

● 瀬谷区社会福祉協議会事務局長 工藤 久 氏

瀬谷区災害ボランティアネットワークが発足から 10 周年を迎えられ誠におめでとうございます。これまでの皆様の活動に改めて感謝申し上げます。

阪神・淡路大震災が起きた 1995 年は、のちに「ボランティア元年」と呼ばれ、当時、延べ 160 万人を超えるボランティアが被災地に駆けつけました。以来、我が国では幾度も自然災害による被害を受け、その度、多くの災害ボランティアが支援活動を行って来られました。また、被災された方同士の助け合い協力しあう姿から、災害に強い街とは、施設や環境の整備と同時に地域の人々が支え合う関係が構築されていることが不可欠であることも学びました。

2017 年版「全国地振動予測地図」によると、横浜で 30 年以内に震度 6 弱以上の地震が起きる確率は 81%にも上ります。万が一の時に災害ボランティアセンターが有効に機能するよう、災害ボランティアネットワークの皆様や区役所と連携強化に努める一方、区内の関係機関と共に、近所で助け合い、支え合う地域づくりを進めて参りたいと存じますので、今後ともよろしく申し上げます。瀬谷区災害ボランティアネットワークの益々の発展と会員の皆様のご健勝を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

● 瀬谷区子ども家庭支援課長（ボランティア班 班長） 柴山 一彦 氏

瀬谷区災害ボランティアネットワーク発足 10 周年を迎えられ、お慶びするとともに、日ごろからの活動に対し、心より感謝申し上げます。さて、10 年前を思い返しますと、当時私自身も瀬谷区役所に勤務をさせていただいており、発足した当初の活動をお手伝いさせていただきました。その時は係長に昇任した当初で、右も左もわからず立ち回っており、大してお役にたてなかったのでは、などと不甲斐なく思っております。

その後しばらく区役所勤務を離れ、29 年 4 月に再度ボランティア班を担当させていただくことになりましたが、先日のシミュレーション訓練に参加させていただいた折には、この間のご苦勞をうかがい知ることができ、今はただ感服いたしております。そして、ボランティアセンターを立ち上げる時がこないことを祈りたい気持ちもありますが、遠からず来るかもしれないその時に備えて、私どもも一緒に万全を期してまいりたい、と気持ちを新たにしております。これからも変わらぬご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

● 瀬谷区総務課危機管理・地域防災担当係長 菅家 広之 氏

日頃より区役所の取組にご理解、ご協力を頂きありがとうございます。区災害ボランティアネットワークが発足して 10 年という節目を迎えられたことに、お祝いとともに感謝申し上げます。

さて、昨今、日本ではたくさんの自然災害が多発しております。これまで、東日本大震災、熊本地震などの災害が発生しています。大きな災害後には、必ず多くのボランティアの方々のご支援により、被災地の一日も早い復旧・復興に繋がっています。今後、首都圏への大地震が発生した場合は、是非、皆様のこれまでの経験と知識を十分に活かしていただくようお願いいたします。

引き続き、区災害ボランティアネットワーク、区社会福祉協議会、区役所の 3 者が一体となり、日頃から連携体制を強化していきたいと考えておりますので、今後もよろしくお願い致します。

2. 瀬谷区災ボラネットを担当して（平成 29 年 5 月 15 日 10 周年記念座談会より）

- 設立の準備段階（現 横浜市社会福祉協議会 地域活動部 市民活動支援課 課長） 若林 拓氏

10 年前に瀬谷区で災ボラを立ち上げるにあたって、区役所より依頼があり、住民主体でボランティアネットワークを立ち上げるにはどうしたらよいかを検討しました。当時、私自身阪神・淡路大地震でも現地に行っていないので、どうしたらよいか分かりませんでした。それで当時、瀬谷区内でボランティア活動をされていたグループに声をかけて、ボランティア連絡会から人を集め、検討に入りました。そのころ近隣の港北区、鶴見区、金沢区などでは活動が始まっていたので、見学や参加などを行い、その内容を学びながら何をしたらよいか検討を始めました。

当時、布絵本の村島さん、金曜の会の佐久間さん、グループ男の手貸しますの木村さん、鈴木さん達、そして瀬川さん、石角さんもいらっしゃいました。準備会の方々が近隣区のシミュレーションに参加し、この程度のことであればできそうだということになりました。期間が短くて、手探りの期間が長くて、思うようには進まなかったようでした。様式集の作成など、できることを日常的に実行していたと記憶しています。とにかく地域の方々と繋がりを持って行けたら良いなと思っていました。

- 初代担当（現 港南区社会福祉協議会主任） 大年 浩治氏

若林さんからの引継ぎで後は宜しく頼むよと言われ、当時はなかなか分からないことが多く、試行錯誤の中でやっていました。ボランティアコーディネーターとしては、地元の方たちが集まり何をどのようにしたらいいのかを決めた方が良いのではという考えのもと活動していたようでした。そのためには活動拠点を定めて、協定(社協、区役所、災ボラ)を結ぶとか、連絡手段を持っているとか、記録とか文章を作るというところで活動していました。例えば災害発生時に防災無線電話を使った機材とか、突発的な時の連絡手段として電話があり、またパソコンが必要というようなこと、とかいうような話をし、機材を揃えました。

災害時の支援物資については、結構外部より支援していただけるようです。しかし区民の方々のニーズに合った配分が当時どのようにしたらよいか全く分かっていませんでした。また物資や機材、お金などがどのように回ってくるか、整理ができていなかった。当時は地域の方が活動しやすいように作っていくように話し合っていました。災ボラの存在を区民の方々に周知すると云うことは大切だと思っていました。

ホームページについてもそのような理由により作っていったようでした。特に瀬谷区民の方々に災ボラの存在を知ってもらうことが最重要と考えていました。後に、鶴見区のシミュレーションに参加してその必要性を感じた次第です。自治会、消防、区役所など含めて一体になって行っていたことに深い感銘を覚えました。具体的には要支援者をリヤカーに乗せて移送する訓練などでした。

泉区などでは、地域の拠点のメンバーが災ボラの会員になり総会も百数十人規模で、組織的にやっていたことも参考になりました。静岡での図上訓練のレポートで災害にはその地域の特性に合わせた内容でシミュレーションをやっていました。瀬谷では、資器材(のぼり旗、ビブスなど)の手配やより良いものを導入し行くようにしてきました。

● 2代目担当 (現 旭区社会福祉協議会事務次長) 牧内 豊 氏

平成21年4月より5年間災ボラを担当しました。3.11の瀬谷災ボラの活動が一番印象に残っています。釜石の被災地に発災年の5月より10日間派遣されて現地を見てきました。災ボラセンターで受け付け業務を担当しました。その年の8月に小清水局長も釜石の方に派遣され、二人とも同じ認識を持てたことがあり、そのあとの活動につながり、ボランティアバスを合計10回も出せたことに繋がってきたのではと思います。

ボランティアバスの当初は、がれきの撤去、3.11で街頭募金を実施し資金を集めるということで活動してきました。募金活動には隼人高校も賛同していただき、多額の資金を集めることができました。また、それに関連して釜石の物産販売も行い被災地との協力もできたのかなと思っています。

ボランティアバスの事業を継続するというので5年計画を立てました。翌年の夏には、長屋門の灯籠を持っていき、夏祭りに参加し、作業の支援や交流をしてきました。現地では、仮設住宅ができて、冬にはクリスマス・リースを作り現地の方々との交流を深めてきました。

そうした中で、釜石の方々との繋がりが密になりこうした繋がりが重要であると考えています。現地に顔見知りの方がいるという繋がりが重要になり、また現地の高校生と隼人高校の生徒同士が現地で交流会を行ったり、現地の小学生とこちらからの小学生が夏に現地で沢遊びをしたり、交流がさらに深まっています。こうした現地との交流の中で、特に若い人たちとの交流が引き継がれていっています。

この先若人の繋がりがどのように展開していくか楽しみです。瀬谷から戸塚に行ってボラバスを出したが1回で終わってしまいました。やはり継続することは難しいのだなと思いました。瀬谷では継続しているので土壤ができているのかな、ぜひ長く実施していただきたいです。瀬谷では、災害時の情報発信、集約、広報などが正確にできているように思います。

● 3代目担当 (現 保土ヶ谷区社会福祉協議会主事) 山本 篤 氏

平成26年4月～平成28年3月の2年間瀬谷で勤務しました。瀬谷の特徴は困った方に何かしてあげようという方が多く、また企業さん、養護学校などとのつながりが多く、幅広く活動を広げていくというところを強く感じました。また大災害が発生したときには、拠点ではボランティアセンターを立ち上げることはできない拠点多い中、瀬谷の災ボラさんは逞しく見えてきました。

保土ヶ谷では災害ボランティアセンターの立ち上げは社協がやるようになっていますが、現状では社協だけでは立ち上げができない状況です。これから改善していきますが、何かあったら瀬谷の皆様へ知恵を貸してほしいです。

● 現担当 (瀬谷区社会福祉協議会主事) 水越 美恵 氏

瀬谷区災害ボランティアネットワークの記念の年を皆様と一緒に迎える事ができうれしく思います。10年の間には、様々な出来事やご苦労もあったと思います。瀬谷区災害ボランティアネットワークの皆様と共に協力をしながら今後の活動を盛り上げていきたいと思っています。

3. 災ボラメンバーの感想（五十音順）

● 阿部 真澄

瀬谷区災害ボランティアネットワークが発足して10年とのことですが、私が入会したきっかけは瀬谷ボランティアバスに個人参加していた時に社協の山本氏より災ボラ活動を教えて貰ったこと。入会して3年になります。災ボラネットについての知識は全くなかったため、図上訓練には県内だけでなく、静岡災ボラネット図上訓練に泊りがけで参加しました。ビッグレスキューかながわ（三浦市武山駐屯地）と九都県市合同防災訓練（小田原市）では、災害時に活躍する車両を知り、またスケールの大きさに感動しました。現在は災ボラネット活動の内容も理解できるようになりました。

災害を想定した災害ボランティアセンター開設訓練には市民の方々、若い中学生、高校生など多くの方に参加してもらえたら良いなと思います。私自身は災害現場での支援活動は無理がありますが、スキルアップしながら自分ができることで活動していきます。東日本大震災被災地の方々と繋がりを持つために実行していることがあります。

- ボランティアバスで釜石訪問
- 3/11 ボランティアバス募金活動
- 釜石物産展手伝い
- 釜石より現地の海産物を取り寄せています

これらを支援の一部と思い行っています。

● 有賀 正一

災害ボランティアの仲間になったのは東日本大震災の1年後でした。大災害が発生した時、ただ右往左往するだけでなく、何か積極的に役に立つことをしたいとの思いでした。特別な技能もないのですが、毎月の例会に出席を重ねて6年ほど経ちました。昨年11月77歳で初めて釜石へボランティアとして行きました。山間にある仮設住宅の窓や換気扇の掃除でした。「くじけず、元気で頑張っていて下さい」とのエールになっていればいいなと思っています。

● 石角 千賀子

平成17年5月頃に、当時、瀬谷区社会福祉協議会田中次長から「今度新しく災害ボランティアネットワークを立ち上げたいので創立メンバーになって頂けませんか」というお話がありました。先ずボランティア連絡会のメンバー10人で発起し、だんだんと会員を募集して30人位に増やしたいという説明だったと思います。

平成7年1月17日に阪神淡路大震災があり、全国的に防災に対する意識が高まっていた時期でもあり、関西出身の私は親戚、友人の多くが被災していたので、お見舞いの方々3月に現地を訪れ、かつて経験した事のない悲惨な現状を目の当たりにした衝撃が強くなり心に残っていました。自分に何が出来るのか？との迷いもありましたが、とにかくやってみようとお引き受けしました。

当時、私は視覚障害者にテープで情報を伝える「音声訳グループつくしの会」でボランティア連絡会の一員だった事もあり、障害者への役割も必要と考えました。いよいよ平成18年1月～19年2月を設立準備期間として活動が始まりました。さて組織は立ち上がったものの具体的に、今何をすべきか、今後どう進めていけば良

いかイメージが描けません。

それで平成17年10月渡邊実氏（現在（株）まちづくり計画研究所）の講演を聞き概要を学びました。さらに平成18年1月と7月に研修会に参加し、内容を学びながら、瀬谷区での立ち上げのイメージを検討しました。並行して平成18年2月「金沢区災ボラシミュレーション」、平成19年2月「港北区災ボラシミュレーション」を見学・参加させていただき、今後何をすべきか少しずつ見えてきました。

発足当初はとにかく、こういう組織を知ってもらふ事と仲間を増やす事に力を入れ、口コミは勿論、区役所の広報を通じて参加者を募ったシミュレーションには20名以上の参加者がありました。しかし2~3年で応募者が激減し、メンバーのスキルアップに方針転換され、最近では地元の中高生との連携で、若く即戦力になる人材の養成に力を入れています。

この間、活動を取り巻く情勢や環境の変化に戸惑いつつも、役員の方々の前向きな取り組みの成果があり、現在の盤石な組織が作られた事に心強く感慨を覚えます。現実には災害が起こらない事を祈りつつ、日ごろ、皆が安心して生活ができるように益々充実した活動に発展しますよう期待しております。

● 小川 滋

私が災害ボランティアとして、初めて参加したのは東日本大震災の時です。神奈川県ボランティアバスで石巻市でガレキの撤去作業をしました。その後、瀬谷区災害ボランティアセンター開設訓練シミュレーションに参加して入会しました。

当初はメンバーの人達から、災害ボランティアの色々な行事に参加して、知識を得て活動しました。災害ボランティアセンター開設訓練シミュレーション、ボランティアバス、内部コーディネータ訓練、地域防災拠点訓練等の活動を通して、たくさんの人達と知り合い活動を継続しています。今後も、顔の見える関係の人々との輪を広げて活動を盛り上げて行きたいと思います。

● 佐久間 豊

10年ひと昔と言いますが、平成19年災害ボランティアネットワークの発足式があってからあつという間に10年過ぎてしまったという感じです。第1回運営委員会は同年3月に開催され、以降原則として毎月開催し、行事内容その他が討議決定され今日に至っております。その中で、他の機関、施設の見学も大変勉強になりましたし、見学後の会食も楽しい思い出です。近年は足痛で参加出来ず誠に残念です。

さて話は変わりますが、昨年3月開催された“ボランティアのつどい”で私は車イスの体験係を担当いたしました。その他にサポーターとして某高校の生徒に担当していただきました。その生徒が、体験者に、車イス部分の名称、走行の仕方、注意事項等説明して、立派に講師役をつとめて頂きとても驚きました。本人に聞いたところ、“ボランティアのつどい”とか“災害ボランティアネットワークのシミュレーション”で私の車イス説明を聞いて覚えたとのことでした。

災害ボランティアネットワークの第1回シミュレーションは平成20年3月17日に開催され、以来毎年開催されてきましたが、近頃のシミュレーションには某高校の生徒が毎回参加されコーディネータの役割を覚えて頂いております。災害ボランティアネットワークでも、若い会員がなかなか見つからないと聞きますが、この生徒達が将来ボランティアとして登録して頂ければ、この上ない喜びです。

しかしボランティアとして登録されていなくても、実際災害が起きた時、覚えて頂いたことを発揮してコーディネータ役をつとめて頂くこともあり得るということを車イス体験の生徒で実感しました。そんな思いを抱きながら、今後のシミュレーションでも（コーディネータの役割についてしっかり説明していこう）と考えを新たにした次第です。

● 篠 康房

入会のきっかけは、今から約 12 年前サラリーマンを退職し、今までの仕事から急に解放され何か自分の趣味でも思いっきりしたいという希望がありました。そこで始めたのがパラグライダーという空のスポーツです。最初のころは毎日スクールに通っていましたが、天候の状況で毎日飛べないので、また身体的にも相当きつい部分もありました。3ヶ月位したある日、何か人のためになるような活動はないか考えるようになり、現役の時、新潟地震で被災した現地へ、会社の仕事として派遣に参加したことを思い出しました。

この仕事は天然ガスステーション（新潟市内には至るところよりガスが噴出していてそのガスを集め、調圧して一般家庭や企業に供給しているところ）の設備診断を機械関係の人、建築関係の人、土木関係の人、電気関係の人、プロジェクト担当（派遣している人の管理や客先との調整など営業的な仕事を行う）でチームを作り、発災してから 2 日目には横浜を出発し JR で新幹線、在来線などで行けるところまで行き、その先はタクシーで移動しました。当時の状況は被災地に近づくと殆どのトンネルは通行止め、山を何とか迂回してやっと宿に着いたのは、夜中でした。

次の日からは、現地のガスステーションの方が車で宿まで迎えに来てくれ、やっと被災地の現場に到着しました。ガス設備の被害調査・診断から仕事に入りましたが、現地には設備の診断ができる人がいないので、作業員、重機などの作業車、工具や資器材は準備されており、何をどのようにしたら良いのかの判断をして、対策会議を現地の方と夜遅くまで行っていました。

現地の方は初めて会う人ばかりなのですが、とても気づかいが細やかで、仕事が終わった後はどのステーションでも、車で宿まで送ってくれました。現地での作業は、約 1 週間で、メンバーは 7 人で、ガスステーションを 6 か所回り、お手伝いを行いました。金銭的には全て客先には請求せずに交通費、宿泊費などは全て会社の出張扱いで処理されました。

このような、自然災害（地震災害）は何時発生するかわかりません。この時ほど相手から感謝されたことの経験は初めてでした。こんな経験から、はじめは「男の手貸します」というグループに入り、1ヶ月後に災ボラネットに入り現在に至っています。

● 芝田 敏之

私が地域防災に関心を持ち始めた切掛けは、定年退職後しばらくして自治会・町内会長および三ツ境小学校地域防災拠点の運営委員（事務局も兼務）に任命された頃からです。その後、防災訓練の企画・運営および自町内会の防災等のあり方を考えさせられました。

そんな中で平成 23 年 1 月瀬谷区消防署長より感謝状「地域防災への功績」を授与されました。そんな折、瀬谷区災ボラネットの存在を知り、防災拠点の活動だけでは限界があり、外部組織との連携の必要性を痛感しました。

災ボラネットの活動を経験していく中で私なりに幾つかの問題点、改善点などを考えました。

1) 瀬谷区地域防災拠点（15 拠点）との連携の強化

- 2) 地元中学生、高校生（発災時の有力な働き手）への防災教育、防災訓練への参加拡大
- 3) 災ボラネット会員の増員（特に地域防災拠点との繋がりのある人）
- 4) 自治会・町内会の高齢化、核家族化（要援護者）の進む中での対策・自助・共助（主に地域防災拠点の課題）

「備えあれば患いなし！」東日本大震災から7年、熊本地震から2年ほか、土砂災害など各地で発生する自然災害に対し、予知、減災対策、等々、発災時に対する組織づくり、訓練の周知を平素から心掛けたいものです。

● 瀬川 行弘

立ち上げ時には、ボランティア活動グループの者が集められたが、何をするのか判らなかつたように思います。私は点字のボランティアをやっていたので、関連が全く分かりませんでした。最初の1年は纏まりがなかつたようでした。竹内代表が決まった時くらいから、その内容が多少見えてきたように思います。

特に、災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルを頂いて内容を拝見すると、当初、だいぶ時間をかけて他地区のマニュアルを参考にして作ったことを思い出します。10年経過して、現在顧問ということで役員になっていますが、E-mailが多数発信されていますが、現在の役員の方々はとても自慢できる人たちです。しかし現状の役員の方々も高齢化が進んでいますので、若い人の益々の参加を期待します。

● 辻川 和伸

入会のきっかけは、平成19年2月頃、広報よこはま瀬谷区版の災害ボランティアネットワーク紹介記事でした。当時、二ツ橋交差点脇にあった「パートナーせや」で災ボラネット活動を始めたという記事でした。

平成7年1月の阪神淡路大震災で出身地の神戸が被災した時、親兄弟、多くの親戚が被災しながら、横浜に住んでいた私は仕事を優先し、支援活動には親元を訪れた半日ほど参加しただけでした。後で会社の後輩が会社を3週間休みボランティア活動したことを知り、少し後ろめたい気持ちがありました。広報記事を見た時は、被災地支援する団体と思ったのですが、話を聞いて初めて、発災時に地元で災害ボランティアセンターを立ち上げる活動と知りました。

出席した日はまだ災ボラネットの設立準備中だったようで、訪れたその日に役員選出があり、いつの間にか男性の1人として私も役員に選ばれました。今思えば、女性達にうまくおだてられたという気がしないでもありません。入会当初は、社協と区役所の区別もつかず、災ボラネット活動の中身も殆ど知りませんでした。

気象庁出身の男性が代表となり、広報、訓練、ハンドブックの3つの部会が作られ、設立総会に向けての準備が始まりました。私は、当時からホームページなどに関心があったので広報部会担当となりホームページやメーリングリストを作りました。また広報メンバー4人で災ボラネット広報用のパンフレットを作りました。

入会はしたものの、実際に大地震が起きるとは余り考えていませんでした。そんな心を見透かしたのか平成19年7月に新潟中越沖地震（M6.8）が起きました。この時は、内部体制も整わず、被災地支援に行ったKSVNの方から活動内容を聞いただけでした。その2年8ヶ月後平成23年3月に東日本大震災（M9.0）が起きました。

その頃、初代代表、2代目代表が病気のため相次いで活動を休んでいました。そんな中、東日本大震災が起き思いがけず3代目代表として2年間務めました。この間、災ボラネット活動は横の連携が大切と考え、横浜災害ボランティアネットワーク会議の運営委員として毎月の会合に参加しました。7月に横浜災ボラネット会議の

ボランティアバスが出た時は瀬谷災ボラから3人の1人として釜石市を訪れました。また横浜災害ボランティア支援センター設置・運営マニュアルと、それを雛形にした瀬谷区災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルを作りました。

平成23年11月に社協主催の瀬谷ボランティアバスが始まりました。私自身は体力面の不安もあり瀬谷ボランティアバスには平成25年12月に1度参加しただけです。しかし瀬谷ボランティアバス自体は7年後の今も累計11回続き、その都度災ボラメンバー数名が参加できているのは嬉しいことです。

平成28年4月には熊本地震(M7.3)が起きました。気象庁資料によると、日本ではこの10年で震度6強以上の大震災が8回起きています。幸いこの10年、私達の地元横浜市は被災地にはなりませんでしたが。しかし次の10年、被災地にならない保証はどこにもありません。何とか災ボラネット活動を次の世代につなげていきたいと考えるこの頃です。

● 平原 美栄

バケツリレーで火事を消すかのごとくの一一致団結で、災害時のボランティア活動が、瀬谷区の皆さまに行き渡るようにしたいです。そのために災害ボラネットが、日ごろから情報収集し、学習及び訓練をしていると思います。私も学習及び訓練に参加して、災害時に備え、女性ならではの笑顔と優しさを忘れずに少しでもお役に立てれば嬉しいです。

● 宗村 隆寛

私が災ボラに加入したのは、東日本大震災のボランティア後でした。震災後、弊社社員が、県のボランティアバスで宮城方面に日帰りボランティアに行ったのを聞き、私も参加しようと考えていました。

それから4カ月ぐらいでしょうか。横浜市で、釜石へ2泊(車中1泊)2日の行程でボランティアバスを出したので、参加しました。作業2日目は、市内に流れている河原の草刈りでした。朝の作業前、町内会長が挨拶に来て、この場では震災前は休日に催し物を定期的に行っていたが、震災後はほぼばりばなしだったので、このように草が背丈よりも伸びてしまいました。地元の者だけでは、手が回らない、ほんとに助かります。の旨を話し、感謝の意を表してくれました。私を含め、みな意気に感じ、一日、草刈りで汗をかいたのと覚えています。

その後、帰路に着く前、風呂に入り食事をしている中、横浜市の何区かには、災ボラネットがあり、たしか瀬谷区にもあるはずと聞いたのが、きっかけとなりました。例会に参加してみると、当時災ボラ代表の辻川さん始め、会員の皆さんが熱心に活動されているのを見て、加入をしました。今後とも、よろしくお願いいたします。

● 望月 照司

瀬谷区災害ボランティアネットワークに入会の切掛けは、平成20年6月のある日、瀬谷区にウォーキングのグループを立ち上げようと一緒に準備をしていた仲間から「ちょっと飲みに行かないか？」と電話での誘いがありました。とある飲み屋に行ったところ、初対面のKさんから瀬谷区の災害ボランティアの話を聞きました。ボランティアの登録かと思い、当時は体力にも若干の余裕があったので加入してみようとの話になりました。

頭の中には、大和市にある管工事協同組合(水道工事店の団体)の事務局に勤務していた時に阪神淡路大震災(平成7年)があり、役員会が開かれ、現地の水道局と連絡を取り、3日後には工事店主が1週間交代でライ

トバンに工具、工事材料を積み、ボランティアで現地の水道局、水道工業者に協力し復旧くじに汗を流した事が浮かんだからです。

平成20年6月19日、当時の災ボラ代表から活動の概要を取りまとめた資料を送ります。一緒にボランティア活動を行っていきたいと思います。よろしくとの連絡があり、10日後に二ツ橋交差点そばのパートナー瀬谷での災害ボランティアセンター開設訓練に参加しました。この時はコーディネートの流れの全容がよくつかめず理解不十分でした。翌年の瀬谷センターでの開設訓練は体育館の中で行われ、ボランティアセンターの配置、待機場所やボランティアの流れ等がよくわかり、臨場感にあふれた訓練が行われた印象が強く残っています。

最近では加齢による難聴などにより、体力、気力が減少したようです。考えもなかなか纏まらなくなりました。当会の活動に興味を持ち、フレッシュな行動力を持つ方々の入会を期待しています。

● 由月 照也

私が最初に瀬谷区災害ボランティアネットワーク（以後瀬谷災ボラ）の存在を知ったのは平成18年2月25日の瀬谷区災害ボランティア研修に参加した時です。まだ瀬谷災ボラは設立の準備段階でした。その翌年の平成19年1月29日の瀬谷災ボラ説明会に出席して正式に3月1日瀬谷区災害ボランティアネットワーク発足式で入会しました。

当時の瀬谷災ボラは準備会で活動していたボランティア7団体の中心メンバー（秋田美也子、村島光子、瀬川行弘、石角千賀子、西村喜久代、佐久間美智子、木村脩治の7名）に、発足式からは新たに（竹内昌明、辻川和伸、由月照也等）が加わって本格的に活動が始まりました。

私が瀬谷災ボラの入会した理由は平成7年1月17日の阪神・淡路大震災を神戸で実際に経験をして沢山の方々に助けて頂いた経緯があり、退職後、災害に携わるボランティア活動を探していた時に先ほど述べたように瀬谷区に災害ボランティアネットワーク設立の動きを知ったことです。

当時は横浜市18区で瀬谷災ボラ様な団体が活動していたのは9区で特に港北区・鶴見区・金沢区は早くから活動しており、瀬谷災ボラも準備段階から3区の訓練等には参加して参考にしていました。準備段階は社協 若林拓氏、区役所総務課 佐藤氏と先ほど述べましたボランティア団体の方々が中心で準備会が活動していました。発足時は構成員正会員19人、社協は若林拓氏から大年浩治氏に変わり、区役所総務課担当は宇多範泰危機担当係長に異動になりました。

先ず9月の設立総会を目指して、月1回の定例会で竹内代表、村島、瀬川、木村、瀬川、辻川、由月各理事が中心となって、①災ボラ規約（案）②19年度部会の設置と活動内容 ③19年度活動計画（案）④19年度予算（案）を作成するために活動開始をしました。

①は災ボラ規約竹内代表が草案を作成して検討をした。

②は部会瀬川部会長・木村副部会長の（ハンドブック作成部会）、由月部会長の（訓練・研修部会）、辻川部会長の（広報部会）3部会が設立して会員も各部に所属して活動内容について検討。③は3部会が中心となって作成 ④ 村島会計理事が作成。

平成19年9月27日に設立総会が開催されて、正式に瀬谷区災害ボランティアネットワークが誕生しました。最初の災害ボランティアセンターの開設訓練は平成20年3月17日に当時社協事務所があった「パートナーせや」において瀬谷区社協の職員と瀬谷区災ボラ会員とで研修を兼ねて実施しました。

その後、一般参加者も加わって毎年実施していましたが、10年間で1回だけ中止になった年があります。それが忘れもしない平成23年3月11日の東日本大震災があった時です。私はボラセン開設訓練のリーダーとして3月11日の午後「パートナーせや」で会員仲間と翌12日ボラセン開設訓練の準備作業を終えて帰る支度をしていました。

突然大きな地震の揺れを感じて事務所から外に出ました。すぐに区役所総務部の危機管理 宇多係長に連絡しましたが、瀬谷区は大きな被害もないので、訓練は予定通り実施することになりました。18時頃区役所 宇多係長から横浜市も被害があり区役所に災害対策本部が立ち上がったので訓練は中止との連絡がありました。

それから会員、一般参加者に中止の連絡を電話、携帯電話、PC等で連絡しましたが、回線がかなり混乱していて、何人かは連絡が取れずに、翌朝会場に行った記憶があります。瀬谷区はほとんど被害がありませんでしたが、特に東北地方は大惨事になりました。

その年から現在まで瀬谷区社会福祉協議会と瀬谷区災ボラネットが協力した釜石市に毎年ボランティアバスの運行と年数回の釜石市物産展等を通して支援活動を行っています、現在瀬谷災ボラネットの大きな活動の柱です。最後に私は体が続く限り、瀬谷災ボラの活動を今後も続けていきたいと思います。

● 横田 カツ子

私は平成7年から瀬谷区の現住所に定住するようになりました。夫婦共働きで職場と自宅の往復でちっとも地域のことを知らないことに気づき、退職後は地域の活動をして少しでも地域のことを知り、また地域の人たちに溶け込んでいこうと考えて、広報や区民活動センターのチラシなどをよく見るようになりました。

最初に目に留まり参加したのが「瀬谷水緑の健康ウォーク」の活動です。立ち上がって既に2年位経過していて、生き生きと活動している先輩方を拝見して大変刺激を受けました。その先輩方の中に瀬谷区災害ボランティアネットワークのメンバーが4人いて、いつの間にか私も加入させて貰うことになりました。

私自身の最初の活動は、平成23年3月12日に予定されていたシミュレーションに参加することでしたが、前日に起きた東日本大震災により中止となってしまいました。これが災害ボランティアや同ネットワークについて考えるきっかけになり、その後の自分自身の活動の原点になっています。

一人の力は本当に微々たるものですが、被災地に気持ちを寄せつつ、地元で発災時に何か役に立つといいなと深刻にならないで活動に参加しています。シミュレーションなどを通じて瀬谷区災害ボランティアネットワークの活動が地域に広がることを期待しています。

4. 区役所、社会福祉協議会、地域防災拠点、中学校・高校との連携

(1) 瀬谷区災害ボランティアネットワーク設立の経緯

平成 18 年 1 月、社協からボランティア連絡会への働き掛けを契機に設立準備が始まった。ボランティア 7 団体（音声訳グループつくしの会、金曜の会、グループ男の手貸します、手話サークルさかいの会、瀬谷点訳友の会、せや布えほんぐるーぷ、配食グループたんぽぽの会）と社協で準備会が構成された。災ボラ活動とは何かを理解するため、災害ボランティア研修会を 2 回受講し、また金沢区、港北区の災害 VC 開設シミュレーションに参加した。準備会当初から、区役所総務部総務課危機管理係の意見を仰ぎ、また区長に準備会の状況を報告した。平成 18 年 12 月にはボランティア連絡会としてシミュレーションを実施した。これらの経緯を経て平成 19 年 3 月 1 日に瀬谷区災害ボランティアネットワークが発足した。半年間の準備期間を経て平成 19 年 9 月 27 日に瀬谷災ボラネット設立総会を開催した。当時の会員数は 17 名、協力団体 3、区役所は横浜市他区に準じ参与、社協は事務局という位置付けだった。

(2) 区役所、社協、災ボラネットの連携 — 三者協定

平成 20 年 3 月に、区役所、社協、災ボラ三者の協力関係を取り決めた三者協定を締結した（第 1 版）。その後、瀬谷区災害ボランティアセンター設置場所が、当初の瀬谷センターから瀬谷公会堂を経て現在のせやまる・ふれあい館に変更になったことを受け、平成 25 年 3 月に三者協定を改定した（第 2 版）。

協定内容は三者が保管すると同時に瀬谷区災ボラネットホームページで公開している。

(3) 規約

瀬谷区災ボラネットの活動内容を明確にするため、平成 19 年 9 月の設立総会で瀬谷区災害ボランティアネットワーク規約（第 1 版）を制定した。その後、役員数変更、賛助会員、サポーター制追加など、その都度改定した。現在は第 6 版。規約は瀬谷区災ボラネットホームページで公開している。

(4) 災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル

災害発生時、災ボラセンターをスムーズに立ち上げるため、平成 20 年 3 月に簡易ハンドブックを作った。平成 24 年に横浜災害ボランティアネットワーク会議で、横浜市災害ボランティア支援センター設置・運営マニュアルが制定された。これを雛形として瀬谷区版の災ボラセンター設置・運営マニュアルを作ることになった。

平成 25 年 6 月に区役所（ボランティア班、総務部危機管理）、社協、地域防災拠点（三ツ境小、二つ橋小）、瀬谷区災ボラネットの 4 者で設置・運営マニュアル作成実行班をスタートし、平成 26 年 3 月に第 1 版を発行した。

その後、区役所ボランティア班のマニュアル改定に伴い、災ボラセンターのワークフロー図とハンドブックのニーズ把握兼活動報告書の見直しを行った。設置・運営マニュアルと簡易ハンドブックの重複を避けるための見直しを含め、平成 29 年 5 月に第 3 版として改定した。設置・運営マニュアルは瀬谷区災ボラネットホームページで公開している。

(5) 地域防災拠点との連携

瀬谷区災ボラネットはボランティア連絡会を母体として発足したこともあり、当初も今も地域防災拠点や自治会連合会を母体とした多くの他区災ボラ組織に比べ、地域防災拠点との連携はまだ不足している。

地域防災拠点と瀬谷区災ボラネットの連携には以下の2つの相互協力が大切と思われる。

- ① 瀬谷区災ボラネットの災ボラセンター開設シミュレーションに、地域防災拠点関係者が参加し災ボラネット活動の役割を理解する。
- ② 地域防災拠点の防災訓練に瀬谷区災ボラネットが参加し、地域防災拠点の役割を理解する。合わせて、防災訓練参加者に災ボラネット活動を紹介し一般区民の方に災害ボランティアネットワーク活動を知っていただく。

後の、「防災拠点訓練への参加」で紹介するように、瀬谷区には15所の地域防災拠点がある。平成29年時点で、この内、3拠点（三ツ境小学校、二つ橋小学校、南瀬谷小学校）とは良い連携できている。1拠点（大門小学校）とは一時連携できていたが今は中断している。他11拠点はまだ話し合いが始まっていない。

（6）中学校・高校との連携

過去、大災害にあった被災地では、中学生、高校生、大学生が、災害ボランティアセンター運営の担い手として大きな役割を果たしている。瀬谷区に大学はないが、中学校が6校（公立5校、私立1校）、高校が3校（公立2校、私立1校）あり、これらが候補と言える。中学校では部活動としてボランティアを推奨している学校がある。また高校では私立の横浜隼人高校が学校方針としてボランティア活動に積極的に取り組んでいる。

過去の実績として、平成26年度～平成29年度のシミュレーションでは4年連続で、南瀬谷中学校、横浜隼人高校野球部の生徒さんに参加して貰い、コーディネータ役とボランティア役の両方を体験して貰った。

また、平成28年度は、瀬谷区の公立5中学校の生徒約30名に、ボランティア役を体験して貰った。

これら若者達のボランティア体験が、いつか、どこかで役立つことを期待したい。

（7）賛助会員、サポーター会員との連携

瀬谷区災ボラネットは、正会員、賛助会員、サポーター会員で構成される。平成22年度よりサポーター会員制を、また平成28年度より賛助会員制を開始した。正会員は総会で年間活動方針を決め、それを実行すると共に、毎月の運営委員会で進捗確認する。また年会費を払い、災ボラ活動費用の一部とする。

サポーター会員は平時の総会、活動、運営委員会には参加せず、会費納入もないが、発災時は機材や人材提供を通じ災ボラ活動を支援する。賛助会員も平時の総会、活動、運営委員会には参加しないが、年会費を通じ資金面で災ボラ活動を支援する。賛助会員は、発災時、サポーター会員と同じく機材や人材提供を通じ災ボラ活動を支援する。

平成30年5月21日時点で12法人2個人が賛助会員として、また1団体がサポーター会員登録している。正会員にとって、賛助会員、サポーター会員の存在は大きな励みとなっている。

賛助会員12法人：(有)アオキ地図出版社、(有)アドバン、税理士法人TMP、瀬谷交通(有)、社会保険労務士法人閃光舎、(株)富士紙業、三ツ境交通有限会社、(有)モンテファミリー、(株)依田儀一商店、横浜ステンレス工業(株)、(株)サカモト、横浜建設一般労働組合 旭瀬谷支部

サポーター会員1団体：男のボランティアとなり組

5. 横浜市、神奈川県の大ボラ団体との連携

大地震は広域災害になるケースが殆どのため横浜市、神奈川県の大ボラ団体との連携にも力を入れてきた。

(1) 横浜災害ボランティアネットワーク会議

横浜災害ボランティアネットワーク会議は、横浜市健康福祉総合センターを拠点とする横浜市 18 区の大ボラネットとその他団体との横断組織で、大地震発生時は横浜市災害ボランティア支援センターの役割を担っている。

瀬谷区大ボラネットは平成 19 年の発足当初から横浜災害ボランティアネットワーク会議に参加した。平成 19～22 年度は経験も浅く、横浜大ボラネットワーク会議総会で 1 年の活動報告を聞くだけだった。

平成 23 年度以降は運営委員会メンバーとして、より積極的に横浜大ボラネット会議の運営に関わるようにした。毎月の会議に出席するだけでなく、横浜市大ボラ支援センター設置運営マニュアル策定や大ボラセンター図上訓練を通じ、横浜市内の大ボラ関係者同士の顔の繋がりを深めてきた。東日本大震災の時は、横浜大ボラネットワーク会議主催のボランティアバス（釜石市支援）が催行され、瀬谷大ボラネットも 3 名が参加した。

(2) Cブロック連絡会

C ブロック連絡会は、横浜市 18 区内、相鉄沿線の旭、泉、瀬谷、保土ヶ谷 4 区災害ボランティア団体の連絡会である。平成 25 年度にスタート。幹事区を交替しながら、年 3～4 回開催。C ブロック連絡会、各区総会、各区シミュレーションに相互に参加することで、顔の見える関係作りしている。

シミュレーションに関し、平成 28 年 1 月に瀬谷区大ボラ幹事で C ブロック合同の大ボラセンター開設訓練をせやまる・ふれあい館で実施し、実際の発災時、どのような課題が出るかを検証した。この他、瀬谷区大ボラネットは、平成 27 年度の旭区シミュレーション、平成 24 年度、29 年度の泉区大ボラシミュレーションに参加した。

瀬谷大ボラネットは、C ブロック以外に、鶴見区、港北区、金沢区、栄区、戸塚区のシミュレーションに参加している。シミュレーション訓練内容は、各区で個性があり、参加する度に大きな刺激を受けてきた。

(3) かながわ災害情報連絡会

かながわ災害情報連絡会は平成 28 年 5 月、防災・災害ボランティア活動における ICT 技術（情報通信技術）促進を目指し設立された。瀬谷区災害ボランティアネットワークは設立当初からこの連絡会の団体会員として参加した。

かながわ災害情報連絡会が具体的に普及させたいと考えているテーマ例には以下がある。

- ① 東海大学内田理研究室開発の DITS（災害情報ツイッター）
- ② 防災科学技術研究所開発の e コミマップや Google マップを活用した防災電子地図
- ③ 防災ポータルサイト
- ④ 防災科学研究所開発の災害 VC キットの実用化
- ⑤ その他の防災に役立つ ICT 技術の普及活動

(4) かながわ災害ボランティアネットワーク（KSVN）

瀬谷区大ボラネットは KSVN の孫会員にあたる。設立当初、瀬谷区大ボラネット会員全員がコーディネータ養成講座を受講した。また関連団体の図上訓練、防災訓練に参加している。防災講演会に講師派遣を数回依頼した。

6. 災害 VC 開設シミュレーションと防災訓練参加

(1) 災害ボランティアセンター開設シミュレーション

災害ボランティアネットワーク活動をスムーズに行うため毎年1回災害ボランティアセンター開設シミュレーション（模擬訓練）を実施している。最初の本格的なシミュレーションは平成21年3月、当時、災ボラセンター設置場所に予定されていた瀬谷センター体育館と瀬谷区社協拠点のパートナーせや（当時は二ツ橋交差点脇）の2カ所を利用した。

平成22年度シミュレーションは、平成23年3月12日実施予定だったが、前日に起きた東日本大震災により中止となった。平成23年度シミュレーションは、災ボラセンター第2候補地の区役所5階で実施した。

平成24年度と25年度は、三ツ境小学校のプレハブ教室をお借りし、三ツ境小防災拠点訓練と同日開催し、防災拠点ニーズを受け、ボランティア派遣した。平成24年3月三者協定が改定され、瀬谷区災ボラセンターは、せやまる・ふれあい館に開設することが決まった。平成25年11月に、せやまる・ふれあい館での初シミュレーションを実施した。これ以降は毎回、せやまる・ふれあい館で開催している。

平成26年度以降のシミュレーションには、瀬谷区の中학생、横浜隼人高校生が積極的に参加してくれており頼もしい限りである。平成27年度シミュレーションは横浜Cブロック（旭、泉、瀬谷、保土ヶ谷）合同訓練を兼ねて実施し、参加者は過去最高の99名となった。平成29年度は社協の全面協力の元にシミュレーションを実施できた。ここ数年、一般参加者が減少傾向なのが課題として残る。

平成29年度は、瀬谷区社協の全面参加の元に実施



平成28年度、南瀬谷中、横浜隼人高校から多数の参加があった



平成28年度、区内5中学校の生徒さん対象のボランティア体験訓練



平成 27 年度は横浜 C ブロック（旭、泉、瀬谷、保土ヶ谷）合同訓練を兼ねて実施、参加者 99 名



平成 26 年度、南瀬谷中、横浜隼人高校生徒さん達が初参加



平成 25 年度 せやまる・ふれあい館での初シミュレーション



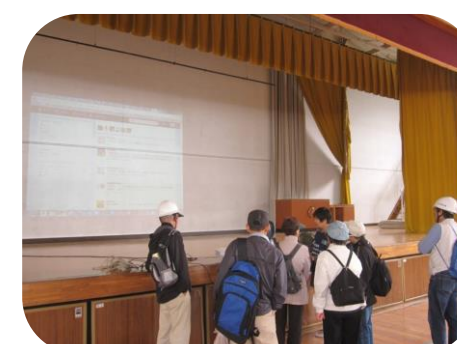
平成 25 年 11 月 16 日せやまる・ふれあい館で初めての災害 VC 開設シミュレーション YouTube



平成 25 年 10 月 19 日三ツ境小防災拠点訓練での 2 度目の災害 VC 開設シミュレーションとツイッター発信訓練の YouTube。



平成 25 年度 三ツ境小プレハブ教室での 2 度目のシミュレーションとツイッター発信訓練



平成 24 年度 三ツ境小学校のプレハブ教室をお借りしてシミュレーション(1 回目)。
防災拠点訓練では初めての情報ボランティア訓練 (ツイッター発信訓練) も実施



平成 24 年度三ツ境小防災拠点訓練
での災ボラセンター開設訓練、情報
ボランティア訓練
状況を YouTube
にし関係者に公開
しました。



平成 23 年度シミュレーションを平成 24 年 2 月 25 日区役所新庁舎
5 階会議室で実施



平成 23 年度シミュレーション
平成 24 年 2 月 25 日 区役所新庁舎
で実施の YouTube。



平成 22 年度シミュレーション
は平成 23 年 3 月 12 日に予定さ
れていたが前日起きた東日本大
震災により中止となった。

平成 23 年度 九都県市合同防災訓練が開催された。瀬谷災ボラは東野中から三ツ境小への物資搬送に協力



平成 20 年度シミュレーションは、当時の、災害 VC 設置予定場所 瀬谷センター体育館と社協拠点のパート
ナーせや (当時は二ツ橋交差点脇) の 2 カ所で瀬谷区長や多くのボランティア参加者のもと実施した。



(2) 地域防災拠点訓練への参加

横浜市では平成 7 年の阪神大震災以降、小中学校を地域防災拠点と定め、大震災発生時の被災者支援活動の拠点としている。横浜市全体で平成 28 年度末で 459 カ所、瀬谷区では上瀬谷小、相沢小、二つ橋小、瀬谷小、瀬谷中、大門小、三ツ境小、瀬谷第二小、南瀬谷小、南瀬谷中、原中、瀬谷さくら校小、原小、横浜ひなたやま支援学校、阿久和小の 15 カ所が指定されている。

平常時からの災ボラネットと地域防災拠点との連携は欠かせない。平成 7 年から始まった地域防災拠点に対し、平成 19 年に始まった瀬谷災ボラネットの活動は発足当初は殆ど知られていなかった。当初は災ボラ組織自体の基礎固めで手一杯だったが、基礎が固まった平成 21 年度から地域防災拠点との連携をスタートした。

最初に連携が始まったのは、平成 21 年 9 月当時の災ボラ代表の地元、大門小学校だった。ポスターやパンフレットで災ボラ活動を紹介すると共に、訓練参加者に興味を持っていただけるよう、ペットボトルの蓋を使った破損ガラス体験、非常時の手作りローソクなどを紹介した。協力関係は、平成 21 年、22 年の 2 年続いた。残念ながら窓口役を担っていた災ボラ代表の病気で人の繋がりが途切れ今は中断している。

三ツ境小学校防災拠点とは、平成 23 年度の九都県市合同防災訓練から協力関係が始まった。九都県市合同防災訓練は東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、横浜市、千葉市、川崎市、相模原市、さいたま市の合同訓練である。平成 23 年度は、横浜市が幹事市、瀬谷区が横浜市の幹事区、三ツ境小学校が瀬谷区の幹事防災拠点訓練会場だった。瀬谷区災ボラネットは東野中から三ツ境小への物資搬送訓練協力をテーマに参加し、校庭に災ボラブースを設け拠点訓練参加者に災ボラ活動を紹介した。平成 24 年、平成 25 年度はツイッター投稿実演した。

三ツ境小学校防災訓練にはこの時から平成 29 年度まで 7 年連続で参加している。平成 24 年度、25 年度の 2 回はプレハブ教室を借用し、災害 VC 開設シミュレーションを兼ねて実施した。この両年はかながわ 311 ネットワークの協力を得て市内で初めてツイッターによる情報発信訓練した。平成 28 年度、29 年度は災ボラ活動を説明するかたわら、拠点訓練参加者に、防災簡単レシピ（じゃがりこポテトサラダ、簡単混ぜご飯）を紹介し好評だった。平成 28 年度は DITS（災害情報ツイッター）発信、平成 29 年度は電子地図など防災活動での ICT 利用を紹介した。写真とツイッター文を元にした字幕で YouTube にして公開するなど新しい試みにも取り組んだ。

二つ橋小学校の防災拠点訓練には平成 24 年度から平成 29 年度まで 6 回継続参加した。平成 25 年度は、災ボラセンター開設訓練を新しく災害ボランティアセンター開設場所に決まった「せやまる・ふれあい館」と二つ橋小学校の 2 カ所で実施した。平成 28 年度、29 年度は、災ボラ活動や瀬谷ボラバスを説明するかたわら防災簡単レシピを紹介し、多くの防災訓練参加者に関心を持っていただいた。今後は、防災ツイッター発信、電子地図なども紹介して行きたい。

南瀬谷小学校の防災訓練には平成 27 年度と 29 年度の 2 回参加した。平成 29 年度はポスターで災ボラネットの活動内容や瀬谷ボランティアバスでの被災地支援を説明すると共に、防災簡単レシピを紹介し好評だった。今後、防災ツイッターや電子地図なども少しずつ紹介して行きたい。

災ボラネットと地域防災拠点とは相互の協力関係を続けることが大切で、そのためには人と人との繋がりがかかせない。これまで築いた相互信頼関係をきちんと維持しつつ、少しずつ、他拠点にも連携を呼び掛けていきたい。

平成 29 年度三ツ境小防災拠点訓練は雨のため体育館内、防災簡単レシピと電子地図を紹介



平成 29 年度南瀬谷小学校防災拠点訓練で防災簡単レシピと災ボラ活動の紹介



平成 28 年度 二つ橋小学校防災拠点訓練でも災害時簡単レシピの紹介



平成 28 年度三ツ境小防災訓練では
横浜市内の防災拠点訓練で初めて
DITS (災害情報ツイッター発信) 訓
練を実施した。また、
DITS 文と写真を元に
YouTube にした。



平成 28 年度三ツ境小防災拠点訓練では初めて災害時簡単レシピと DITS を紹介し大きな反響があった



平成 24 年、25 年度三ツ境小防災拠点訓練では 2 回連続でシミュレーションとツイッター投稿訓練を実施した



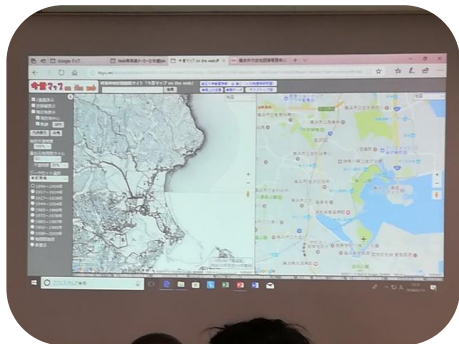
(3) 他区・他市防災訓練への参加

横浜市内ではこれまで、Aブロックの鶴見区、Bブロックの港北区、Cブロックの旭区、泉区、保土ヶ谷区、Dブロックの金沢区、栄区、戸塚区の災害VC開設シミュレーションに参加した。また、横浜災ボラネットワーク会議主催の図上訓練には毎年参加してきた。平成22年度座間市、静岡県伊東市、平成25年横須賀市、平成28年、29年大和市合同防災訓練など他市の訓練にも参加した。それぞれの訓練内容は少しずつ異なるものの、毎回参考になることが多く良い体験になった。

平成30年横浜災ボラネットワーク会議のDIG訓練は電子地図活用

平成29年大和市総合防災訓練ではDITS発信と電子地図を紹介

平成29年泉区シミュレーション見学



(4) 静岡災害ボランティア図上訓練への参加

平成29年度以前は東海地震が国内で唯一予知の可能性のある地震とされていた。このこともあり毎年3月静岡市で開催の静岡災害ボランティア図上訓練には全国から災ボラ関係者300~500名が集まる。

瀬谷区災ボラネットは平成20年度訓練の初参加から平成29年度まで計8回毎回1~4名が参加してきた。平成23年3月5-6日の静岡災ボラ図上訓練5日後の3月11日に東日本大震災が起き、図上訓練参加者の多くが被災地支援に駆け付け、人の繋がりの大切さを実感した。

平成24年度静岡災ボラ図上訓練（平成25年3月2-3開催）のYouTube。岩手県の被災地支援拠点となった遠野市の本田敏秋市長が基調講演した。



(5) 九都県市合同防災訓練への参加

九都県市合同訓練は首都圏の（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、横浜市、川崎市、相模原市、千葉市、さいたま市）の合同訓練で毎年9月1日、場所を変え大々的に実施される。平成23年度瀬谷区三ツ境小学校防災拠点の物資配送支援訓練には瀬谷災ボラから17名が参加した。また平成27年度厚木市、平成28年度横須賀市、平成29年度小田原市の訓練では、かながわ災害情報連絡会団体会員として瀬谷区災ボラネットから1~3名が参加し情報ボランティアとしてツイッターによる防災情報発信や電子地図を紹介した。

平成29年度小田原市酒匂川スポーツ広場

平成28年横須賀市自衛隊武山駐屯地でのDITS（災害情報ツイッター）の写真と記事でYouTube映像を作りました。

平成23年三ツ境小での物資配送支援訓練には17名参加



7. 被災地支援活動

(1) 横浜ボランティアバス、瀬谷ボランティアバス

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災をきっかけに、瀬谷区災ボラネットは被災地支援を活動の 1 つの柱とすることを決めた。最初の参加は、平成 23 年 7 月横浜災害ボランティアネットワーク会議主催の横浜ボランティアバスで、平成 23 年 6 月 29 日～9 月 12 日にかけて 6 便 210 人が岩手県釜石市に派遣された。瀬谷区災ボラネットは第 2 便（7 月 6 日～9 日）に 3 名が参加し、青空市の支援、ガレキの撤去、物資の積み込み等した。

この活動を通じ、現地支援活動の大切さを実感した。被災者の気持ちを考慮し参加者の写真撮影は禁止された。下の写真は、横浜災ボラネット会議平成 23 年度事業報告に掲載された釜石市災害ボランティアセンター前。

瀬谷区社協主催の瀬谷ボランティアバスは、平成 23 年 12 月に 1 回目のボランティアバスが派遣された。この後、平成 24 年度～平成 27 年度は毎年 2 回、平成 28 年度からは毎年 1 回企画され、平成 23 年～29 年の累計回数は 11 回になる。瀬谷区災ボラネットは、発足当初は発災時の災害ボランティアセンター開設が主な役割だった。ボランティアバス参加を通じ、今は、被災地支援をもう一つの大きな役割と位置付けている。

瀬谷ボランティアバスは、横浜隼人高校が積極的に参加し、毎回、約半数は高校生または大学生が占める。中学生、小学生(平成 27 年度)が参加した時もある。行先は、岩手県の釜石市、大槌町、陸前高田市など。瀬谷区災ボラネットメンバーは毎回、1～4 名が瀬谷ボランティアバスに参加してきた。瀬谷ボラバスの写真は全て瀬谷区社協より提供いただいた。

ボランティアバスでの支援内容は、当初 1～2 年はガレキ撤去作業が多かった。平成 25 年度以降は、この種の作業は終了し、被災場所視察、盆踊りでの屋台や灯籠組み立て、仮設住宅でのクリスマスリース作り、清掃活動、防災布絵本、折り紙、食事作り、瀬谷丸訪問、南北リアス線試乗、現地の高校生、小学生との交流など多彩な内容となった。

平成 23 年 6 月 29 日～9 月 12 日 横浜ボランティアバス 6 便が岩手県釜石市に派遣され瀬谷区からも 3 名参加



左の写真は横浜災ボラネット会議平成 23 年度事業報告に掲載された釜石市災害ボランティアセンターと参加者

平成 29 年度瀬谷ボランティアバス、瀬谷災ボラから 4 名参加。 釜石駅全員集合写真、鶴住居仮設住宅訪問



平成 28 年度瀬谷ボランティアバス、瀬谷災ボラから 4 名参加。 釜石駅前、釜石社協、夏のふれあい祭り



平成 27 年度瀬谷ボランティアバス、瀬谷災ボラから 2 名参加。 小学生は瀬谷丸試乗、田郷仮設



平成 26 年度瀬谷ボラバス、災ボラ 3 名参加。釜石市生活ご安心センター、村島さんの読み聞かせ、集合写真



平成 25 年度瀬谷ボランティアバス、瀬谷災ボラから 1 名参加。 参加者集合写真 大槌町役場跡視察



平成 24 年度瀬谷ボラバス、第 1 弾、第 2 弾に各 3 名参加 集合写真

平成 24 年度と 25 年度の瀬谷ボランティアバスを YouTube 映像として公開している。

平成 25 年度

平成 24 年度



(2) ボランティアのつどい、せやまる・ふれあい祭りで釜石物産展、赤い羽根共同募金、被災地支援募金活動

瀬谷区災ボラネットはボランティア連絡会を母体とした組織で、発足当初から3月開催のボランティアのつどい、12月開催のせやまる・ふれあい祭り（平成23年以降開催）に毎回参加してきた。

当初はボランティア同士の横の繋がりを得るためだったが、平成23年の東日本大震災以降は、毎年この場で釜石物産展を開催してきた。物産展の売上は現地販売店の収益となり、利益は瀬谷ボランティアバス費用の一部として活用されている。10月1-5日の赤い羽根共同募金も被災地支援募金活動として参加した。

平成24年以降、ボランティアのつどいで社協主催「釜石報告会」が開催され、被災地からの来訪者と瀬谷区民の交流が図られている。瀬谷区災ボラネットは毎回交流会に参加すると共に、平成29年度の釜石報告会では瀬谷ボラバスに参加した災ボラメンバー3名が、高校生に交じて区民にボラバス体験を紹介した。

平成29年度ボランティアのつどいで釜石物産展と釜石報告会（平成29年度はメンバーがボラバス体験を紹介）



平成23年度～28年度のせやまる・ふれあい祭りで釜石物産展開催、売り上げは釜石に還元、利益はボラバスに



平成20年3月 初めて
ボランティアのつどいに参加

平成29年度赤い羽根共同募金
隼人高校生徒さんと一緒に

平成23年 東日本大震災7カ月後の
赤い羽根共同募金、三ツ境駅で



(3) 伊豆大島豪雨、関東・東北豪雨の支援

平成 25 年の伊豆大島豪雨は、横浜から 100km 圏内と身近な場所で発生した豪雨災害だった。交通の便の悪い場所だったが、瀬谷災ボラメンバー 1 名が現地の泥出し支援に参加した。

平成 27 年の関東・東北豪雨も横浜から 100km 圏内の豪雨だった。横浜から常総市や鹿沼市にボランティアバスが派遣された。瀬谷区災ボラネットからも 2 名が参加し、現地の泥出し支援した。

平成 27 年の関東・東北豪雨では、瀬谷区災ボラネット会員 2 名が常総市、鹿沼市の泥出し支援に参加



(4) 熊本地震の支援

平成 28 年 4 月の熊本地震は、阪神淡路大地震級のマグニチュード 7.3 の大地震だった。横浜から 1200km と遠く現地派遣は困難だった。瀬谷災ボラネットは、横浜災ボラネットワーク会議の呼び掛けに応え桜木町駅前の義援金募金に参加した。またせやまる・ふれあい館でも募金活動し義援金を瀬谷区社協経由で熊本県西原村社協に送った。

桜木町駅前で熊本地震募金活動



熊本地震は遠隔地のため、横浜からは現地の詳しい情報を得るのが困難だった。

ICT 研究会（正式名：ICT を活用した災害ボランティア情報収集・交換に関する研究会、現在のかながわ災害情報連絡会の前身で瀬谷災ボラも会員）は、被災地状況が少しでも分かり易いよう、熊本地震支援ページや、西原村応援サイトを作り現地情報把握に努めた。

ICT 研究会熊本地震支援ページ



西原村応援サイト



8. 交流、広報活動、展示物、広報媒体

(1) 瀬谷フェスティバル

瀬谷フェスティバルは、瀬谷区で最大のお祭りで、毎年10月～11月に海軍道路の原っぱで開催される。瀬谷区災ボラネットは、設立2年目の平成20年度から区役所と共同でブースを設け、防災クイズなどを通じて、多くの区民に防災および、災ボラネットの活動を紹介した。平成28年度の参加者数は6万5千人で多くの方々にブースを訪れていただいた。平成20年度瀬谷フェスティバルをYouTubeで公開。展示の様子を見ることができる。

(2) 地域防災拠点訓練、ボランティアのつどい、せやまる・ふれあい祭り

地域防災拠点防災訓練は、瀬谷区災ボラネットにとっては、多くの区民、防災関係者との交流、広報の場である。また、ボランティアのつどい、せやまる・ふれあい祭りは、被災地支援と同時に、釜石市・大槌町と瀬谷区民（災ボラメンバーを含む）交流、広報の場となっている。

(3) 瀬谷養護学校避難訓練と交流フェスティバル

瀬谷養護学校は毎年9月に防災訓練、12月に交流フェスティバルを開催する。瀬谷区災ボラネットは、防災紙芝居、布絵本などを通じ、災害が発生した時、どのように行動したら良いか紹介している。

平成28年度瀬谷フェスティバル



平成27年度瀬谷フェスティバル



平成21年度瀬谷フェスティバル



平成21年度瀬谷フェスティバルの
YouTube映像



平成20年度 瀬谷フェスティバルに初参加



平成29年度 瀬谷養護学校避難訓練、交流会



(4) 展示物

- 災害時簡単レシピ、布絵本、防災紙芝居、防災クイズ

災害時簡単レシピは、拠点防災訓練で参加者に人気が高く、平成 28 年以降、災ボラから防災拠点に提案できる必須メニューとなっている。布絵本、防災紙芝居は、ボランティアのつどい、せやまる・ふれあい祭り、瀬谷擁護学校交流フェスティバル等で、年少者に人気が高い。防災クイズは、瀬谷フェスティバルの定番メニュー。

- 車椅子体験、高齢者疑似体験、非常食作り、保育所／子育て支援拠点訪問

災ボラセンター開設シミュレーションでは、これらのメニューを中学生、高校生にボランティア役として体験をして貰っている。若者たちは普段の生活と異なるこれらの体験に大きな刺激を受けているようである。

- DITS（災害情報ツイッター）発信、電子地図紹介

ツイッター発信した写真や電子地図をプロジェクターやモニターテレビで生中継する。三ツ境小学校防災拠点訓練、大和市総合防災訓練、九都県市合同防災訓練で展示済み。今後、防災拠点訓練での定番メニューにしていきたい。

(5) 広報媒体

- パンフレット

災ボラネット活動を分かり易く説明する補助資料として平成 20 年 1 月に A3 両面裏表のパンフレットを作成した。その後、賛助会員制の導入や災ボラセンターワークフロー図の見直しがあったこともあり、平成 28 年 3 月にパンフレットを見直した。新パンフレットは取扱いの容易さを考慮し A4 三つ折りタイプとした。

- パネル

災害ボランティアネット活動の有力な広報媒体として平成 20 年 3 月に最初の A1 サイズパネルを 3 種類作成した。平成 19 年 7 月に新潟中越沖地震が起き、中越沖地震を被災地事例として紹介した。平成 23 年の東日本大震災の後は、瀬谷ボランティアバスや東日本大震災の被災状況を紹介した。

- 広報誌

印刷物による広報も大切なことから、平成 25 年度から 3 ヶ月毎に季刊誌を発行した。編集者の多忙により一時中断したが、平成 28 年度から「瀬谷災ボラ便り」として再開した。

- ホームページ

<https://seya-svn.jimdo.com/>

災ボラ活動を広く外部に広報するため平成 19 年の発足当初からホームページを開設した。内容は、災ボラネットの Q&A、活動計画、活動報告、運営委員会議事録、規約、三者協定、瀬谷災ボラセンター設置・運営マニュアル、会員、外部リンク、瀬谷災ボラフェイスブック埋込。



- フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/seyasvn/>

平成 24 年 11 月に横浜市内災ボラ組織として最も早く、瀬谷災ボラフェイスブックページを開設した。日常の瀬谷区災ボラ活動は、フェイスブックページを通じて情報発信している。



- YouTube

災ボラ活動の広報ツールとして YouTube も部分的に活用している。主な紹介内容はシミュレーション、地域防災拠点訓練、瀬谷ボランティアバス、瀬谷フェスティバル。平成 28、29 年は DITS の写真とツイートを YouTube 化。

9. 会議、外部会議

(1) 総会

平成 19 年度は 9 月に設立総会、平成 20 年度～29 年度は 5 月に総会。

平成 23 年 5 月に社協事務所が二ツ橋町 318 番地 5 から二ツ橋町 468 番地せやまる・ふれあい館に移転したことから 6 月に総会を開催した。

(2) 運営委員会

平成 19 年度～21 年度は年 10 回（7、8 月は夏休み）、平成 22 年度は 9 回、平成 23 年度は 11 回、平成 24 年度～29 年度は 12 回開催。最初の 5 年間は夏休みを取ったが、防災拠点訓練準備（訓練は 10 月～11 月実施）の関係で平成 24 年度以降は通年開催になった。

(3) 役員会

平成 19 年度～22 年度は運営委員会と別の日に開催していたが、役員の負担を減らすため平成 23 年度以降は、運営委員会との同日開催とした。なお必要に応じ臨時役員会を随時開催した。

(4) 作業班

平成 19 年度、20 年度は組織が未整備だったため、会員全員が、ハンドブック班、公報班、訓練班のどれかに所属する体制を取った。一応の整備終了に伴い、平成 21 年度から作業班体制は取り止めた。

災ボラセンター設置・運営マニュアル作成時と改定時は作業班を作った。作業班には災ボラ、区役所、社協、地域防災拠点代表合わせて 10～12 名が参加しマニュアル内容についてレベル合わせした。

(5) 賛助会員交流会

平成 28 年度から瀬谷区災ボラネット内に賛助会員制度を設けた。賛助会員には平常時は資金面の応援、大震災発生などの非常時に物資支援、人材支援をしていただく。正会員と賛助会員の意見交換の場として平成 29 年 8 月 21 日賛助会員、正会員交流会を開催した。

(6) ボランティア分科会

原則 2 ヶ月に 1 度開催。瀬谷区災ボラネットから分科会に 1 名参加。

(7) 横浜災害ボランティアネットワーク会議

年 1 回の総会、年 9 回程度開催の運営委員会、年数回開催の研修会を開催。瀬谷区災ボラネットから運営委員会メンバーとして 1 名参加。恒例の 2 月 DIG 訓練には 4～5 名参加。

(8) かながわ災害情報連絡会

年 1 回の総会、毎月幹事会と定例会、年 5～6 回のイベント開催。瀬谷区災ボラネットから幹事会に 1 名、定例会に 1～2 名、各イベントに 1～3 名参加。

10. 防災講演会、研修会、施設見学

(1) 防災講演会

毎年の総会の後、外部講師による防災講演会を開催した。

年月日	テーマ	講師
平成 29 年度	座談会 瀬谷区災害ボランティアネットワーク 10年の歩みと今後	横浜市社協 若林拓氏 港南区社協 大年浩治氏 旭区社協 牧内豊氏 保土ヶ谷区社協 山本篤氏
平成 28 年度	熊本地震被災地視察報告	横浜災害ボランティアネットワーク会議河西利彦氏 やまと災害ボランティアネットワーク 市原信行氏
平成 27 年度	災害時の情報ボランティア活動	かながわ 311 ネットワーク 伊藤朋子氏
平成 26 年度	東日本大震災の被災地支援について	わくわくケアマネジャー 秋田美也子氏
平成 25 年度	横浜防災計画震災対策編の修正概要について	瀬谷区役所総務部総務課危機管理 佐藤信行氏
平成 24 年度	はじめての遠野まごころネット	遠野まごころネット東京事務所 吉田慶氏 佐々木祐希氏
平成 23 年度	被災地救援活動体験報告	瀬谷区総務部総務課危機管理 阿部英弥氏 横浜市社協横浜市ボランティアセンター若林拓氏
平成 22 年度	ドコモの災害対策とあんしんあんぜんサービス	NTT ドコモ法人事業部ソリューションビジネス 菅野崇亮氏
平成 21 年度	大震災に備える ライフラインとしての水対策	横浜市水道局旭・瀬谷地域サービスセンター 山本貞夫氏
平成 20 年度	地域における顔が見える防災への取り組み	横浜災害ボランティアバスの会 東京ガス横浜支店 総務広報部主幹 秦 好子氏
平成 19 年度	災害に備える！要支援者対策はどこまで	鶴見区災害ボランティアネットワーク 河西英彦氏
平成 19/3/1	災害ボランティアネットワークとは？	港北区災害ボランティアネットワーク 渡辺誠二氏

(2) 研修会（主な活動のみ列挙、これ以外にも多くのイベントに参加）

年月日	テーマ	主催者、講師
平成 29 年度	賛助会員、正会員交流会	瀬谷区災害ボランティアネットワーク
	図上シミュレーション訓練	横浜災ボラネットワーク会議
	ビッグレスキューかながわ（小田原市）	神奈川県・小田原市合同
	電子地図勉強会	かながわ災害情報連絡会
平成 28 年度	クロスロード研修会	瀬谷区災害ボランティアネットワーク 由月照也氏
	静岡図上訓練	静岡県ボランティア協会
	図上シミュレーション訓練	横浜災ボラネットワーク会議
	ビッグレスキューかながわ（横須賀市）	神奈川県・横須賀市合同
平成 27 年度	DIG 訓練	横浜市消防局瀬谷消防署予防課 柏崎 圭氏
	ビッグレスキューかながわ（厚木市）	神奈川県・厚木市合同
平成 26 年度	ファシリテーションスキル	瀬谷区総務部総務課危機管理 佐藤信行氏
	ボランティア班マニュアルについて	瀬谷区区政推進課地域推進担当 松岡文和氏
	災ボラセンター設置運営マニュアルについて	瀬谷区災害ボランティアネットワーク 篠 康文氏
	静岡図上訓練	静岡県ボランティア協会
	災ボラスキルアップ研修会	横浜災ボラネットワーク会議

平成 25 年度	みんな違ってあたりまえ 知的障害者への理解	瀬谷区知的障害啓発グループ ant mama
	静岡図上訓練	静岡県ボランティア協会
	図上シミュレーション訓練	横浜災ボラネットワーク会議
	防災・減災活動体験フェアー	かながわ・よこはま防災ギャザリング実行委員会
	横浜消防出初式 DIG 体験指導	横浜市消防局・株式会社 tvk コミュニケーションズ
平成 24 年度	新入会者の内部シミュレーション	瀬谷区災害ボランティアネットワーク
	静岡図上訓練	静岡県ボランティア協会
	災害ボランティア図上訓練（神奈川県社協）	神奈川災害ボランティアネットワーク神奈川県社協
平成 23 年度	釜石からのメッセージ	瀬谷社協主催、瀬谷区役所共催
	静岡図上訓練	静岡県ボランティア協会
	防災ワークショップ 商店街と障害者の防災	
平成 22 年度	災ボラコーディネータ養成講座（初級）	瀬谷区災害ボランティアネットワーク
	コーディネータとは	鶴見災害ボランティアネットワーク 河西英彦氏
	地震の被害想定とこれに対する備え	保土ケ谷区災ボラネット 鈴木方則氏
	水道に関する災害時の心得	横浜水道局 西家常男氏
	静岡図上訓練	静岡県ボランティア協会
平成 21 年度	災害ボランティア講座	瀬谷区災害ボランティアネットワーク
	災害現場におけるボランティア活動について	神奈川災害ボランティアステーション 鈴木幸一氏
	身体障害の疑似体験	二ツ橋ケアプラザ 小村有美氏
	地域での災害ボランティア活動はなぜ必要か	瀬谷区災害ボランティアネットワーク 竹内昌明氏
	静岡図上訓練	静岡県ボランティア協会
平成 20 年度	静岡図上訓練	静岡県ボランティア協会
	幸福感ミーティング	瀬谷区関区長
平成 19 年度	災害救援ボランティアコーディネーター養成講座 初級編、ステップアップ編	神奈川災害ボランティアネットワーク

注：静岡図上訓練の正式名は、静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練

（3）施設見学

年月日	施設
平成 29 年度	
平成 28 年度	横浜市民防災センター
平成 27 年度	
平成 26 年度	
平成 25 年度	神奈川県警察本部
平成 24 年度	
平成 23 年度	東京広域防災臨海防災公園そなエリア東京
平成 22 年度	
平成 21 年度	
平成 20 年度	
平成 19 年度	

1 1. 会員と会員数推移

(1) 会員と会員数推移

会員について平成 28 年度総会で承認した現在の規約で以下のように定めている。

(以下引用)

(構成)

第 6 条 本会は、ボランティア活動とし、本会の設置趣旨・目的に賛同する 機関・団体・個人による、正会員、賛助会員、及びサポーターで 構成する。

2 正会員は、本会の運営・活動に定期的に参加する。

3 賛助会員は、本会の運営・活動を資金面で応援する。賛助会員は、サポーターを兼ねることができる。

4 サポーターは、主に「災害ボランティアセンター」運営時の役務、 資機材及び駐車場などの便宜供与を行う。

5 瀬谷区役所は、参与として、会の運営・活動を支援するとともに、 密接な連携を図る。

(引用閉じる)

平成 28 年度より賛助会員制を開始した。また個人会員、団体会員の位置づけ、会費を明確にした。

それ以前の平成 19 年～23 年度は協力会員制があり、3～5 団体を登録していた。協力会員は団体会員で瀬谷区連合町内会自治会連絡会、民生委員児童委員協議会、地区社会福祉協議会、第 4 地区民生委員【監事】だった。協力会員の位置付けが不明確なこともあり平成 23 年度で廃止された。

(2) 会員数推移

平成 19 年度～平成 29 年度の会員数推移は以下である。

年度 (平成)		19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
正会員	個人	19	15	15	15	20	31	27	28	25	24	21
	団体				1	0	0	0	0	0	0	0
賛助会員兼 サポーター	個人	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1
	団体			-	-	-	-	-	-	-	10	11
サポーター会員	団体	-	-	-	1	1	2	2	2	2	1	1
協力会員	団体	3	4	4	5	4	-	-	-	-	-	-

(4) 会員同士のコミュニケーション

会員同士は、総会 (年 1 回)、懇親会 (年 2 回)、運営委員会 (毎月 1 回)、平均して月 1 回程度開催される種々のイベントに参加することで顔を合わせたコミュニケーションを取ってきた。毎年恒例のイベントは、災害 VC 開設シミュレーション、地域防災拠点訓練 (平成 29 年度は 3 カ所)、瀬谷養護学校防災訓練/交流フェスティバル、瀬谷フェスティバル、ボランティアのつどい、せやまる・ふれあい祭り、赤い羽根共同募金、九都県市防災訓練など。これ以外に不定期に研修会、施設見学を行った。これら体を動かすイベントは会員にとっても良い刺激になっている。

コミュニケーション用にメーリングリストと瀬谷災ボラ・フェイスブックグループを使用している。役員メーリングリストは 11 年間累計 2,223 件 (1 年平均 200 件) と活用されている。PC 会員用メーリングリストは 11 年間累計で 448 件 (1 年平均 40 件)。フェイスブックグループによる発信は平成 29 年度で約 40 件。

1 2. 活動履歴（新しい活動順）

平成 29 年度	
3 月 17 日	ボランティアのつどい（釜石物産展）
3 月 11 日	瀬谷ボランティアバス募金活動（三ツ境駅）
3 月 6 日	福祉保健施設利用者懇談会で瀬谷区災害ボランティアセンターを紹介せやボランティア祭り
2 月 10 日	横浜災ボラネット会議図上訓練（横浜市健康福祉総合センター）
1 月 20 日	瀬谷区災ボラセンター開設シミュレーション
12 月 16 日	瀬谷養護学校交流フェスティバル
12 月 2 日	せやまる・ふれあい祭りで釜石物産展
11 月 17-19 日	瀬谷ボランティアバス（第 11 回）釜石市
11 月 13 日	瀬谷区社会福祉協議会功労者表彰を受賞（瀬谷区役所）
11 月 4 日	二ツ橋小学校防災拠点訓練（災ボラ紹介、防災非常レシピ）
10 月 28 日	三ツ境小学校防災拠点訓練（災ボラ紹介、防災非常レシピ、電子地図）
10 月 14 日	宮沢小学校防災拠点訓練（災ボラ紹介、防災レシピ）
10 月 1-5 日	赤い羽根共同募金（瀬谷駅、三ツ境駅）
9 月 13 日	横浜災ボラネット会議 C ブロック連絡会（旭区パレット旭）
9 月 7 日	瀬谷養護学校防災訓練見学
9 月 1 日	九都県市合同防災訓練（小田原市酒匂川スポーツ広場）
8 月 26 日	大和市総合防災訓練（大和市大野原小学校）
8 月 21 日	賛助会員・正会員交流会
7 月 4 日	泉区災ボラ連絡会シミュレーション（泉区立場地区センター体育館）
5 月 15 日	平成 29 年度災ボラ総会、10 周年記念懇談会
4 月~7 月	かながわ災害情報連絡会地図勉強会（神奈川県民サポートセンター）

平成 28 年度	
3 月 18 日	ボランティアのつどい（釜石物産展）
3 月 3-4 日	静岡災ボラ図上訓練
2 月 21 日	かながわ災害情報連絡会の災害 VC キット体験会（県民サポートセンタ）
2 月 20 日	横浜災ボラネット会議 C ブロック連絡会（保土ヶ谷区かるがも）
2 月 5 日	横浜災ボラネット会議図上訓練（横浜市健康福祉総合センター）
1 月 28 日	瀬谷区災ボラセンター開設シミュレーション
12 月 17 日	瀬谷養護学校交流フェスティバル
11 月 10 日	区内 5 中学校対象災ボラセンター開設シミュレーション
11 月 5 日	二ツ橋小学校防災拠点訓練（防災非常レシピ）
11 月 2 日	ICT 研究会成果報告会（神奈川県民サポートセンター）
10 月 23 日	瀬谷フェスティバス(防災クイズ)（海軍道路の原っぱ）
10 月 22 日	三ツ境小学校防災拠点訓練（防災非常レシピ、DITS 投稿訓練）
10 月 18 日	横浜市民防災センター体験ツアー（沢渡公園）
10 月 1-5 日	赤い羽根共同募金（瀬谷駅、三ツ境駅）

9月11日	ビッグレスキューかながわ（横須賀市武山駐屯地）
9月9日	瀬谷養護学校防災訓練
9月2日	横浜災ボラネット会議Cブロック連絡会（泉区社協）
8月27日	大和市総合防災訓練（東林間小学校）
7月29-31日	瀬谷ボランティアバス（第10回）釜石市
7月-2月	災ボラセンター設置・運営マニュアル見直し（第三版）
6月20日	横浜災ボラネット会議総会、研修会（横浜市健康福祉総合センター）
6月17日	災害VC運営支援キット研修会（つくば市防災科学技術研究所）
5月18日	平成28年度災ボラ総会、防災講演会 熊本地震視察報告
5月14日	熊本地震募金活動（桜木町駅前、他）
（4月14日）	（熊本地震）

平成27年度	
3月	新災ボラパンフレット作成（A4三つ折り）
3月12日	ボランティアのどい（釜石物産展）
3月11日	被災地支援募金活動（三ツ境駅、瀬谷駅）
3月11日	瀬谷まんまるネット講演会（二ツ橋ケアプラザ）
1月23日	横浜災ボラネット会議Cブロック連絡会（瀬谷区主催）
1月23日	Cブロック合同災ボラセンター開設シミュレーション
12月19日	瀬谷養護学校交流フェスティバル
12月16日	二ツ橋小学校5年3組福祉授業
12月5日	旭区災ボラシミュレーション（旭区パレット旭）
12月4-5日	せやふれあい祭り（釜石物産展）
11月20-22日	瀬谷ボランティアバス（第9回）釜石市仮設住宅交流
11月13日	横浜災ボラネット会議Cブロック連絡会（旭区パレット旭）
11月7日	二ツ橋小学校防災拠点訓練（防災非常レシピ）
11月2日	ラジオ湘南 FM83.1 に電話で生出演（宗村）
10月25日	瀬谷フェスティバス(防災クイズ)（海軍道路の原っぱ）
10月17日	三ツ境小学校防災拠点訓練（防災非常レシピ）
10月1-5日	赤い羽根共同募金（瀬谷駅、三ツ境駅）
9月22日-10月17日	栃木県鹿沼市、茨城県常総市へのボランティアバス参加
9月9日	瀬谷養護学校防災訓練
9月5日	南瀬谷小学校防災拠点訓練
7月30日-8月2日	瀬谷ボランティアバス（第8回）瀬谷丸水揚げ見学
7月30日	横浜災ボラネット会議Cブロック連絡会
6月20日	旭区災ボラ連絡会総会
6月19日	横浜災ボラネット総会
6月15日	DIG訓練（せやまる・ふれあい館）
5月18日	平成27年度災ボラ総会、防災講演会（情報ボランティアについて）

平成 26 年度	
3 月 16 日	横浜災ボラネット会議 C ブロック連絡会（瀬谷区主催）
3 月 14 日	ボランティアのつどい（釜石物産展）
3 月 11 日	ボランティアバス募金活動（三ツ境駅、瀬谷駅）
3 月 7-8 日	静岡災ボラ図上訓練
3 月 2-3 日	釜石物産展（瀬谷区役所）
2 月 22 日	三ツ境小学校冬季防災訓練
12 月 16 日	瀬谷養護学校交流フェスティバルで防災紙芝居、防災クイズ
12 月 6 日	せやまる・ふれあい祭で釜石物産展
1 月 17 日	災ボラセンター開設シミュレーション
11 月 21-23 日	瀬谷ボランティアバス（第 7 回）
11 月 15 日	二ツ橋小学校防災拠点訓練
10 月 26 日	瀬谷フェスティバル（海軍道路の原っぱ）
10 月 18 日	三ツ境小学校防災拠点訓練
10 月 1-5 日	赤い羽根共同募金（三ツ境駅）
9 月 8 日	コーディネータ研修（ファシリテーションスキル）
9 月 5 日	瀬谷養護学校避難訓練見学
8 月 1-3 日	瀬谷ボランティアバス（第 6 回）
7 月 30 日	横浜災ボラネット会議 C ブロック連絡会（保土ケ谷区主催）
5 月	災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル（第 2 版）
5 月 19 日	平成 26 年度災ボラ総会、防災講演会（ボランティア班マニュアル、東日本被災地支援について）

平成 25 年度	
3 月 11 日	街頭募金（三ツ境駅）
3 月 8 日	ボランティアのつどい 釜石物産展
3 月 4-11 日	釜石物産展（区役所、ゆめみ処ここち湯）
3 月 1-2 日	静岡災ボラ図上訓練
1 月 18 日	防災ギャザリング 2014（沢渡公園）
1 月 12 日	横浜消防出初式 DIG 訓練（みなとみらい）
12 月 14 日	瀬谷養護学校交流フェスティバル
11 月 22-25 日	瀬谷ボランティアバス（第 5 回）仮設住宅でのクリスマスリース
11 月 16 日	二つ橋小学校防災拠点訓練、災ボラセンター開設シミュレーション（せやまる）
10 月 27 日	瀬谷フェスティバル（海軍道路の原っぱ）
10 月 19 日	災ボラセンター開設シミュレーション（三ツ境小学校）
10 月 1-4 日	赤い羽根共同募金（三ツ境駅、ダイエー、e モール）
9 月 6 日	瀬谷養護学校防災訓練見学
8 月 18 日	横浜災ボラネット会議図上訓練
8 月 2-4 日	瀬谷ボランティアバス（第 4 回）釜石市鈴子の盆手伝い
7 月 9-12 日	釜石物産展
5 月 29 日	瀬谷区地域防災拠点連絡協議会 災ボラ活動紹介
5 月	災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル（第 1 版）

5月20日	平成25年度災ボラ総会、防災講演会 横浜市防災計画、知的障害への理解
平成24年度	
3月31日	区役所、社協、災ボラ三者協定改定（災害VC設置場所変更、他）
3月20日	泉区災ボラセンター開設シミュレーション
3月11日	瀬谷ボランティアバス募金活動（瀬谷駅）
3月9日	ボランティアのつどい 防災クイズ
3月2-3日	静岡災ボラネット図上訓練
2月22-23日	神奈川災ボラネット図上訓練 首都直下型地震想定（神奈川県社協）
1月17日	鶴見区災ボラシミュレーション
1月19日	防災ギャザリング（沢渡公園）
11月22-25日	瀬谷ボランティアバス（第3回）クリスマスリース作り
11月18日	横浜災ボラネット会議図上訓練 首都直下型地震想定
11月11日	横浜防災ライセンス講習会（瀬谷小学校、瀬谷中学校）
11月4日	二ツ橋小学校防災拠点訓練 兼 災ボラ内部シミュレーション
10月28日	瀬谷フェスティバル（海軍道路の原っぱ）
10月20日	災ボラセンター開設シミュレーション（三ツ境小学校）
10月1日	赤い羽根共同募金（三ツ境駅）
9月29日	災ボラ内部シミュレーション
8月19日	横須賀災ボラ図上訓練（横須賀市社協）
8月24日	瀬谷ボランティアバス（第2回）釜石市鈴子の盆お手伝い
6月29日	横浜災ボラネット会議総会（横浜市健康福祉総合センター）
6月23日	新入会者向け災ボラ内部シミュレーション
5月21日	平成24年度災ボラ総会、防災講演会（遠野まごころネット）
4月6日	新入会者向け災ボラオリエンテーション

平成23年度	
3月16日	神奈川災ボラ 被災地支援のこれまで、これからを考える
3月11日	被災地支援募金活動（瀬谷駅）
3月3日	ボランティアの集い 防災クイズ、防災紙芝居
3月2-3日	静岡災ボラ図上訓練
2月25日	災ボラセンター開設シミュレーション（瀬谷区役所）
2月22日	釜石からのメッセージ（社協主催、区役所共催）
1月28日	防災ワークショップ 商店街と障害者の防災を考える
1月22日	釜石からのメッセージ
1月19日	そなエリア東京見学会（東京臨海広域防災公園）
1月	災ボラハンドブック見直し（第2版）
1月	災ボラパンフレット見直し（第2版）
12月2-5日	瀬谷ボランティアバス（第1回）（陸前高田市、大槌町）
11月19日	南瀬谷小学校輝きフェスタ 防災紙芝居
10月23日	瀬谷フェスティバル（海軍道路の原っぱ） 防災クイズ
10月1-4日	赤い羽根共同募金（三ツ境駅）

10月23日	瀬谷フェスティバル
8月28日	九都県市合同防災訓練（三ツ境小学校、東野中学校）
7月13-16日	横浜発ボランティアバス（釜石市）
6月29日	横浜災ボラネットワーク会議総会（横浜市健康福祉総合センター）
6月6日	平成23年度災ボラ総会、防災講演会 被災地救援活動体験報告
5月22日	せやまる・ふれあい館オープニングセレモニー

平成22年度	
3月16日	横浜災ボラネットワーク会議東日本大震災義援金街頭募金（桜木町）
（3月11日）	（東日本大震災）
3月5-6日	静岡災ボラ図上訓練
3月3日	ボランティアのつどい
2月19日	栄区災ボラセンター開設シミュレーション
2月13日	大門小学校防災拠点訓練（冬季）
1月22日	防災ギャザリング見学
1月17日	横浜市災害対策本部防災シミュレーション（横浜市役所）
1月13日	拠点運営会議で災ボラについて説明
12月20日	災ボラ新入会員オリエンテーション
12月14日	区役所と災ボラのあり方について打合せ
12月2日	防災講演会（災害ボランティアセンターの実際）
10月30日	コーディネーター養成講座
10月24日	瀬谷フェスティバル（米軍通信基地のはらっぱ）
9月1日	伊東市総合防災訓練見学
8月29日	大門小学校防災拠点訓練（夏季）
6月19-20日	座間市避難所体験研修
6月6日	栄区災ボラセンター開設シミュレーション
5月17日	平成22年度災ボラ総会、防災講演会（ドコモの災害対策あんぜんとあんしん）

平成21年度	
3月14日	災害ボランティアセンター開設シミュレーション（瀬谷センター）
3月6日	ボランティアのつどい（ビニール袋で防災エコ炊飯試食、防災クイズ）
2月27-28日	静岡災ボラ図上訓練
2月	神奈川県警察見学
2月14日	大門小学校防災拠点訓練（冬季）
1月31日	防災フェスティバル（戸塚災ボラ）
1月29日	コーディネーター研修会（横浜市役所）
1月21日	防災カフェ（座間市）
11月17日	藤沢グリーンツーリズム地域交流会
11月14日	災害ボランティア講座 災害ボランティア活動の実際、身体障害疑似体験、災害とボランティア
11月1日	瀬谷フェスティバル（海軍道路の原っぱ）ビニール袋でエコ炒飯
10月10日	災ボラ内部シミュレーション
9月	簡易ハンドブック改定

9月5日	大門小学校防災拠点訓練（夏季）
7月19-20日	災害救援のボランティア養成講座中級（戸塚災ボラ）
7月6-8日	地域救援ボランティア講座（川崎市消防総合訓練所）
5月31日	防災減災活動体験フェア（座間災ボラ）
5月20日	平成21年度災ボラ総会、防災講演会 横浜市水道局「大地震に備える」

平成20年度	
3月15日	災害ボランティアセンター開設シミュレーション（瀬谷センター、パートナーせや）
3月7日	ボランティアのつどい ビニール袋で防災エコ炊飯の試食、防災クイズ
2月21-22日	静岡災ボラ図上訓練に初参加
12月1日	瀬谷区長との懇談会「幸福度ミーティング」
10月19日	瀬谷フェスティバル（海軍道路の原っぱ）ビニール袋でエコ炒飯
10月10日	神奈川県防災センター見学（愛甲石田）
9月27日	三ツ境小学校防災拠点訓練見学
9月7日	相沢小学校防災拠点訓練見学
8月31日	瀬谷中学校、二つ橋小学校、相沢小学校防災拠点訓練見学
6月29日	災害ボランティアセンター開設シミュレーション（パートナーせや）
6月4日	横浜災ボラネットワーク会議に加入
5月28日	平成20年度災ボラ総会、防災講演会 地域における顔が見える防災への取り組み
5月	ボランティア連絡会に加入

平成19年度	
3月19日	災害ボランティアセンター開設シミュレーション（第1回）
3月19日	区役所、社協、災ボラの三者協定策定（第1版）
3月	災ボラパネル作成（第1版）
3月	災ボラ簡易ハンドブック作成（第1版）
1月	災ボラパンフレット作成（第1版）
1月20日	災害ボランティアコーディネーター講習会（初級編）
1月12日	災害ボランティアセンターを考えるシンポジウム2008
1月-3月	災害救援ボランティアコーディネーター養成講座(ステップアップ編)
12月1-2日	災害ボランティアコーディネーター養成講座（海老名）
10月-12月	災害救援ボランティアコーディネーター養成講座(初級編)
9月27日	防災講演会 災害に備える！要支援者対策はどこまで
9月27日	災ボラ規約策定（第1版）
9月27日	平成19年度瀬谷区災害ボランティアネットワーク設立総会（パートナーせや）
9月2日	鶴見区災ボラセンター開設シミュレーション
4月～9月	設立総会準備
3月1日	瀬谷区災害ボランティアネットワーク発足式

誕生までの経緯（平成 18 年 1 月～平成 19 年 3 月）	
3 月 1 日	瀬谷区災害ボランティアネットワーク発足式
2 月 17 日	港北区の訓練に参加
1 月 29 日	瀬谷区災害ボランティアネットワーク説明会
12 月 18 日	ボランティア連絡会 シミュレーション実施（17 名参加）
12 月 5 日	事務局 区長へこれまでの進捗説明
12 月 4 日	準備会 説明資料の修正とミニシミュレーション
11 月 10 日	準備会 説明資料の作成とミニシミュレーションの練習
10 月 16 日	準備会 実施した訓練のふり返りと設立準備
9 月 29 日	準備会 シミュレーションの準備、練習
9 月 7 日	準備会 今後の展開について
6 月 29 日	準備会 港北区ハンドブックに関する意見交換
6 月 26 日	準備会 災害ボランティア研修に向け
5 月 15 日	準備会 区役所総務課担当官との話し合い
4 月 17 日	準備会 目的の確認
3 月 13 日	準備会 災害時の諸問題
2 月 13 日	準備会 社協から災害ボラの内容確認
2 月 4 日	金沢区の災害ボランティアシミュレーションを見学
1 月 25 日	瀬谷区災害ボランティア研修会 渡辺氏講演

編集後記

平成 19 年 3 月に瀬谷区災害ボランティアネットワークが発足して 10 年経ちました。これを記念して、当時から今まで設立から関わっていただいた瀬谷区社会福祉協議会の元災ボラ担当の皆さんにお集まりいただき、平成 29 年 5 月の総会に合わせ座談会「瀬谷区災害ボランティアネットワーク 10 年の歩みと今後」を開催しました。

この頃、役員会で瀬谷区災ボラネットの 10 周年記念誌を作れないかという話題が出ました。横浜市の災害ボランティアネットワーク団体では、平成 18 年に発足した横浜栄・防災ボランティアネットワークが平成 28 年 10 月に横浜栄・防災ボランティアネットワーク創立 10 周年記念刊行「栄・防災ボラネット 10 年のあゆみそして明日へ」を発刊しています。

栄区災ボラネットの 10 周年記念誌は、とても丁寧にならされていて、瀬谷区ではこんな立派な記念誌はとても作れないというのが正直な気持ちでした。それでも簡単な内容で良いから何か作ろうという話になりました。

幸い、毎年の総会用の活動報告が良く纏められていたので、11 年間の活動履歴を作る上でとても参考になりました。災ボラメンバーに呼び掛け、災ボラに参加した動機を書いて貰いました。10 周年記念座談会に参加いただいた社協の元瀬谷区災ボラネット担当の皆さんや、瀬谷区長、瀬谷区社協会長の記事はそのまま載せることにしました。瀬谷ボランティアバスの写真は社協からご提供いただきました。災ボラ役員には、全体チェックと助言を貰いました。これらを経て 1 年がかりでまとめたのがこの記念誌です。

文責 辻川和伸